



# 歴史まちづくり計画認定

まちづくり推進課 ☎82・5624 / IP ☎88・9092

## 宇陀市が全国で99番目の認定都市に！

7月30日（水）、「宇陀市歴史まちづくり計画（宇陀市歴史的風致維持向上計画）」が国の認定を受けました。  
奈良県では、3番目となります。

## 歴史まちづくりとは？

地域に残る歴史的な建物や町並み、自然、文化、行事などを未来へ受け継ぐとともに、暮らしや観光・産業にも活かしていくこととする取り組みです。  
単に「古いものを守る」だけではなく、歴史を活かして地域の魅力と活力を高めることを目指しています。

## 歴史的風致維持向上計画認定証

宇陀市歴史的風致維持向上計画

右計画を地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第五条第八項に基づき認定する

令和七年七月三十日

文部科学大臣

阿部 俊子

農林水産大臣

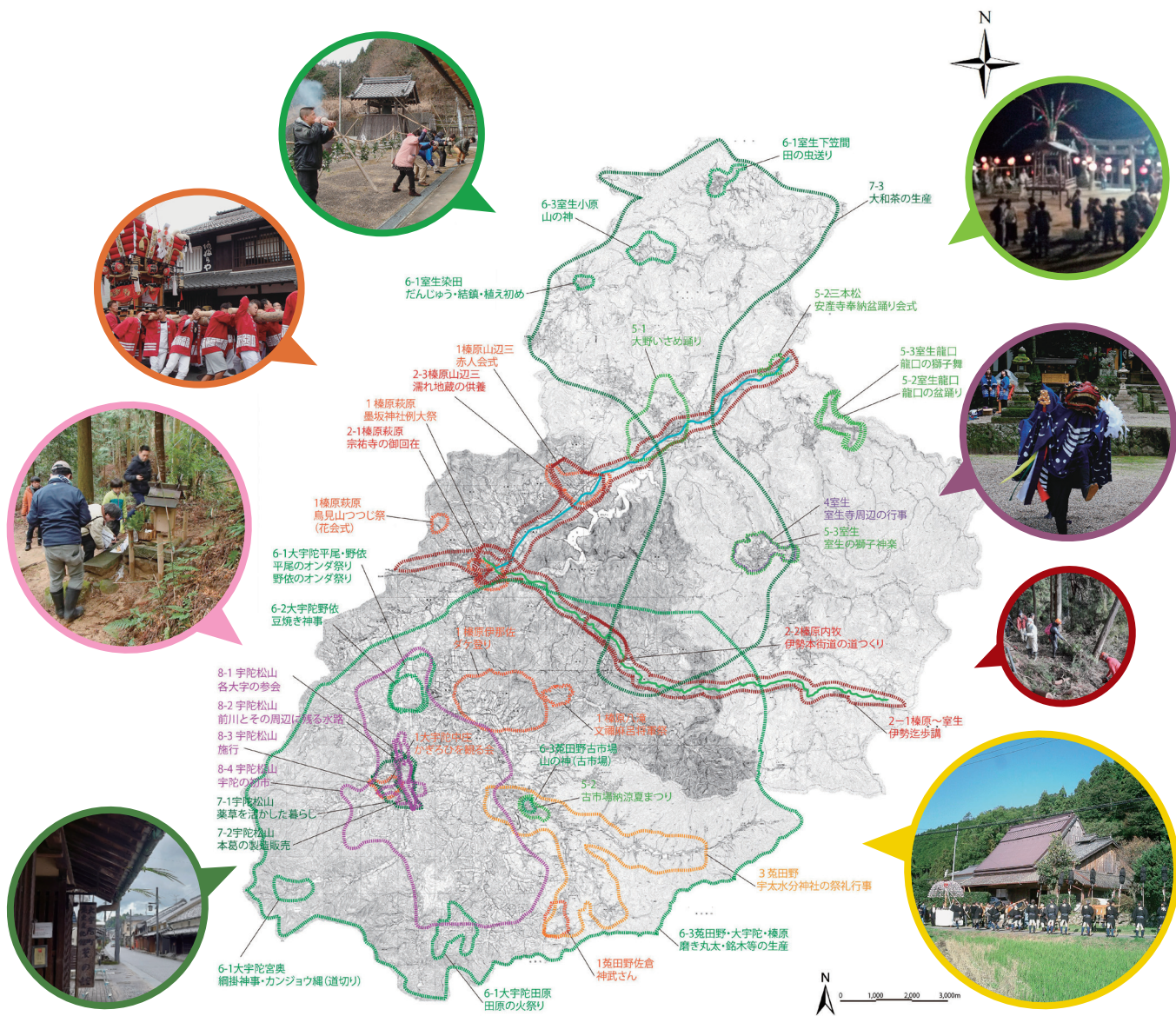
小泉 進次郎

国土交通大臣

中野 洋昌

## 宇陀市 8つの風致

- 1 記紀・万葉ゆかりの地の営みにみる歴史的風致
- 2 伊勢街道の旧宿場町の営みにみる歴史的風致
- 3 宇太水分神社の祭礼行事にみる歴史的風致
- 4 室生寺周辺の行事にみる歴史的風致
- 5 宇陀市の民俗芸能にみる歴史的風致
- 6 宇陀の田畑と山林にまつわる祭礼行事ゆかりの歴史的風致
- 7 薬草の生産と活用まつわる歴史的風致
- 8 宇陀松山の水路と商いゆかりの行事にみる歴史的風致



## 歴史的風致とは？

歴史と伝統を反映した人々の営み・暮らし・活動と、歴史的価値の高い建造物とその周辺の市街地が一体となった状況を指します。

## 宇陀市の歴史的風致

「建物」だけでなく、「そこで営まれてきた暮らし」まで含む点が特徴です。

宇陀市には、地域ならではの魅力ある歴史的風致が受け継がれています。

・国選定「宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区」を中心に行われる伝統行事

・国宝「宇太水分神社本殿」や「室生寺本堂」を中心として開催される伝統行事

・記紀・万葉ゆかりの地に伝わる「神武さん」や「タケ登り」

・伊勢本街道に残る「道つくり」、ほかこれらは地域固有の魅力的な歴史的風致が形成されています。



▲宇陀市歴史的風致維持向上計画はこちらからご覧になれます

- 8

宇陀松山の水路と商いゆかりの行事

戦国時代の城下町から始まり、宇陀郡の中心地として栄えた宇陀松山では、前川と呼ばれる水路を活かした暮らしや、商売繁盛を願う行事が受け継がれている。
- 7

薬草の生産と活用

『日本書紀』に薬獵の地として登場する宇陀は、薬草の生育に適した土地柄であるため、大和茶の栽培や葛の生産などの生業や、薬草を取り入れた暮らしが受け継がれている。
- 6

宇陀の田畑と山林にまつわる祭礼行事

山間地にある宇陀は、山がちで二毛作に不向きな土地柄から、農閑期に林業等を行ってきた。稲作のほか、黒大豆や林業にまつわる祭礼行事が受け継がれ、豊かな農村集落の景観と相まって良好な歴史的風致を形成している。
- 5

宇陀市の民俗芸能

かつては雨乞や慰霊、氏子の息災を願い、市内各地で様々な形の民俗芸能が行われていた。中でもいさめ踊り、盆踊りなど地域固有の民俗芸能が受け継がれ、社寺の境内を中心にして歴史的風致を形成している。
- 4

室生寺周辺の行事

火山性の特異な地形を持つ室生は古くから聖なる地として信仰を集め、龍穴神社や室生寺が建立された。五穀豊穡の感謝を捧げる秋祭りのほか、信仰に絡んだ様々な伝統行事が受け継がれている。
- 3

宇太水分神社の祭礼行事

中世から伝わる宇太水分神社社殿を中心に繰り広げられる、お渡りと太鼓台巡行。山と伝統的な農村集落に囲まれた場所から、中心市街地までの道を豪壮に練り歩く祭礼が受け継がれ、良好な歴史的風致を形成している。
- 2

伊勢街道の旧宿場町の営み

都から伊勢へ通じる重要な街道として発展した「伊勢街道」では、分岐点である萩原宿の御回在や、沿道における道つくり、濡れ地蔵会式など道ゆく人の安全を願う活動等が受け継がれている。
- 1

記紀・万葉ゆかりの地の営み

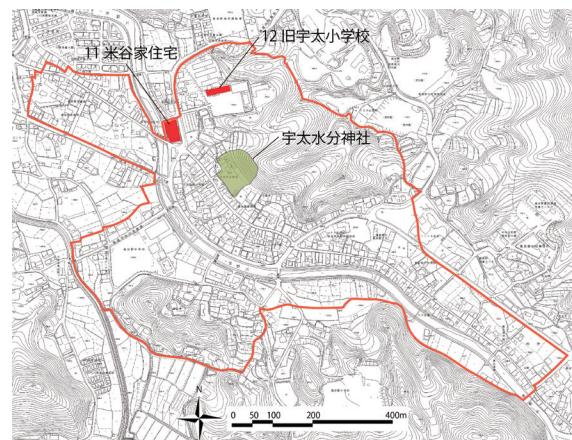
記紀・万葉ゆかりの地名の顕彰活動の足跡を示す石碑や神社を舞台に、記紀・万葉に関連性のある地域固有の行事が継承され、良好な歴史的風致を形成している。



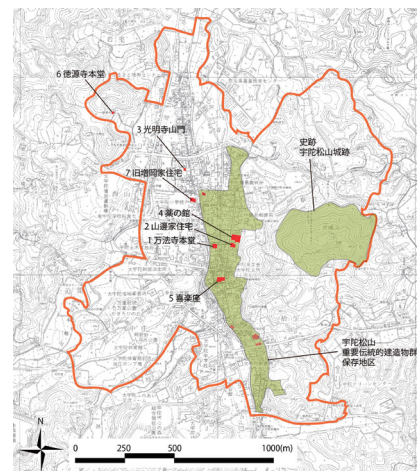
## 計画の内容

本計画では、宇陀市における歴史的風致を位置づけ、8つの風致（3ページ）と、重要文化財建造物等を核とした3つの重点区域を設定しています。更に、次の取り組みを位置づけ、歴史的風致の維持・向上を図ります。

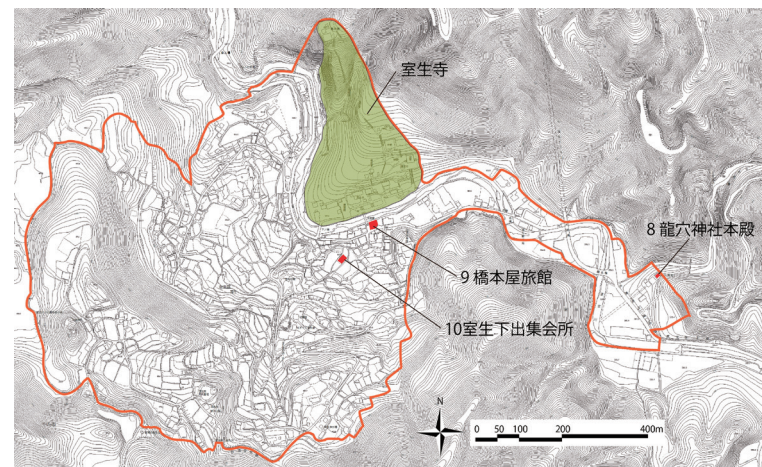
- ・歴史的建造物の保存・活用
- ・歴史的活動の継承
- ・歴史的市街地の整備
- ・歴史的風致の周知と交流促進



▲古市場重点区域



▲宇陀松山重点区域

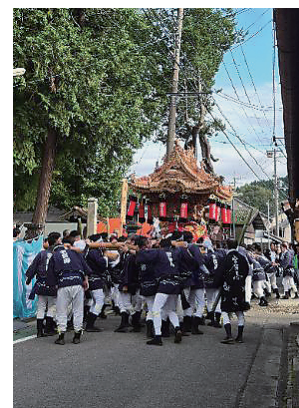


▲室生重点区域

## 歴史を「守る」から「活かす」時代へ

建物だけでなく、そこで育まれてきた人々の暮らしや文化まで大切に、地域に根づく歴史を、日々の暮らしや賑わいづくりにつなげていくことが、歴史まちづくりの考え方です。

先人が守り受け継いできた歴史を大切にしながら、現代の暮らしに合った形で活かし、未来へとつないでいきます。



▲様々な世代が行事に関わっている

## うだチャン番組放映のお知らせ

令和8年1月1日～3月31日まで、午後3時33分からうだチャン11にて放送の「歴史を活かしたまちづくりのこれからを語る」で、歴まち計画の解説と鼎談の一部が放映されます。ぜひご覧ください。

## 歴まちカードを集めよう

国から認定を受けた計画を持つ都市では、カード型パンフレット「歴史まちづくりカード（歴まちカード）」を作成しています。市は、宇陀松山、古市場、室生の3種類を作成しました。ぜひ現地へ足を運び、配布場所ですぐ入手してください。

歴まちカードは概ね全国の認定都市で配布していますので、行先の自治体や地方整備局のホームページ等でご確認ください。



- 宇陀松山
  - ▶道の駅宇陀路大宇陀
- 古市場
  - ▶奈良カエデの郷ひらら
- 室生
  - ▶宇陀市観光案内所

にて配布中

浦西氏と小関氏と、宇陀の魅力と歴まちについて鼎談を行いました！



宇陀市まちづくり推進課 歴まち計画担当者

**森本** 宇陀の魅力とは何ですか？

**小関** 宇陀は地形にバリエーションがあり、様々な集落があります。そして祭が、各集落のコミュニティ機能を強くしている。人のつながりが地域の力になるわけで、そこに魅力を感じています。

**浦西** 宇陀はひとつの空間に、それぞれ小さな文化圏を持っており、それが奈良県全体からみても、よく残っているのが民俗の研究者としても魅力に思っています。

**森本** 宇陀の歴史的風致の取材で寒施行が印象的でした。

**浦西** 宇陀松山では、寒施行（大寒の前後に狐が飢えて悪さをするので、赤飯のお握りを作ってお供えする施しの習慣）が未だに残っています。この寒施行には、動物に対する施し、優しさと思いやりが感じられます。それが実際に残っていることが魅力だと思います。また、寒施行は民間の素朴な行事



榛原石田在住の歴史民俗学者

ですが、祭に伴う食べ物があります。美味しい体験を地域で共有することも伝統行事を残していく上で大事ですね。

**森本** 宇陀の食べ物といえば・・・

**小関** お正月のきなこ雑煮ですね。  
**浦西** あの食べ方は、長い歴史の中で作り上げられたものです。大豆の粉に餅をくるむ。それが中世までたどれる歴史をもった食べ物なんです。地域の人は無自覚にしていますが、奈良県でも重要な民俗行事だとアピールしていると思います。

**小関** よそからしたら凄いいことをやっている、と自覚できるよつになると、地域への誇りやまちの財産になります。寒施行の食べ物も、行事食として身近に食べられるようになれば、地域活性化のネタになると思います。

**森本** 伝統行事は、最強の多世代交流

と思います。知恵の継承や、仲直りの機会になるなど、移住者が地域に馴染むのに役立ついい仕組みです。

**浦西** 祭は教育の場所であり、宗教的感情もそこで呼び覚まされます。民俗学ではハレとよびますが、こうしたハレの日がひと月に1回はあり、皆で御馳走を食べようかな、という気持ちになります。そういうシステムが宇陀では生きています。都会にはありません。

**小関** 他にも冠婚葬祭は昔はコミュニティで行ったため、機能が維持されてきました。こうした地域のアイデンティティや結びつきは大事にしていきたいと思っています。

**森本** 最後に、歴まちに期待することは何ですか？

**浦西** いい事業だと思います。伝統を大事にして未来に残すという考え方は誰もが賛同するところだと思います。歴まちの啓蒙普及が地元と行政をつなぐきっかけになるのでは。

**小関** これを使ってまちの力を育てたいと思います。住民が自分たちの集落のアイデンティティを育むきっかけになるのが、歴まちだと思います。

**浦西** さりげなく行っているハレの意識が、実は重要なメッセージだったりします。過去の人の行動や思いが含まれているのが伝統行事なのでそれに気づいてもらうことが必要です。歴



元榛原西小学校校長、祭文音頭保存会で音頭取りをする等、伝統行事の継ぎ手としても活動中。

史があるから大事というのではなく、400年～500年前の記録にあるものが今も作られているということですから。中世の社会が宇陀にはまだ生きているような気がします。地域の方が秋祭りにかけるエネルギーは中世の気概を感じます。

**小関** 日常会話で、「会所で寄り合い」と言っていますが、「会所」も「寄り合い」も中世から続いている言葉ですよ。盆踊りの花笠も中世、風流がルーツですから。

**森本** 話は尽きませんが、この辺りでお開きとします。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

計画策定にあたり情報提供、取材受け入れをしてくださった皆さまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。